

モバイル用セカンドマシンに最適!

Photo: Nakamura Tohru

ウィンドウズ CE 2.0 マシン 購入ガイド

昨年華々しく発表されたウィンドウズCEが98年に入ってバージョンアップされた。バージョン1.0は、まだまだこなれた製品ではなかったが、今回発表されたウィンドウズCE2.0は本格的に利用できる製品となったのだろうか？そこで、CE2.0マシンはモバイル端末としてどれだけ使えるマシンなのかを検証してみた。購入の際の手助けとして参考にしてほしい。

山本雅史

ウィンドウズCE1.0から2.0へ進化して、“使える”モバイル端末に

バージョン1.0ではいまひとつ使いづらかったウィンドウズCEがやっと2.0にバージョンアップされた。米国では1月のCES(家電関連の展示会)で発表され、それから60日ほどで日本語版が発表されるなど、開発ペースはバージョン1.0のときよりもアップしている。

さて、CE2.0の最大の特徴は、なんといってもディスプレイ機能、ネットワーク機能、デスクトップとの同期機能などの強化だろう。CE2.0では、今までCE1.0ユーザーが抱いていた

不満のほとんどが解消されている。さらに、日本のメーカーではCE1.0の反省を踏まえて、いくつかの独自改良を施している。以上のようなことから、ウィンドウズCE2.0マシンは、1.0の登場のとき以上に魅力的な製品となっている。現在販売されているのは、まだNECのMobile Gearと日立のPERSONA、カシオのカシオペアだけだが、それぞれの製品を比較して、自分のニーズに合った機種を選んでもらいたい。



ウィンドウズCE 2.0 搭載マシンはここが違う

ウィンドウズCE 2.0は、1.0とはまったく別のOSだ。バージョンアップということでリリースされたが、マイクロソフト社はCE 1.0をリリースした後に、OS機能を根本的に見直しているのだ。ここでは、CE 2.0で強化されたいくつかの機能を紹介しよう。

イーサネットに対応

CE 2.0ではイーサネットがサポートされている。これにより、PCMCIAカードのイーサネットカードを利用して、直接LANに接続することができる。もちろん、ウィンドウズ95やウィンドウズNTと同様にログオン認証の機能が用意されているので、許可されていないユーザーが勝手にLANにアクセスできないように設定することも可能だ。

なお、動作確認済みのLANカードの情報は、Windows CE Users Group (<http://www.windowsce.or.jp/>)のページに詳しく掲載されている。参考にするといいたいだろう。



カラーディスプレイに対応

CE 2.0の最大の特徴は、カラーディスプレイへの対応だ。CE 2.0では、ディスプレイ表

示の機能強化が行われており、VGA(640×480ドット)までのカラーディスプレイをサポートしている。現在発表されているCE 2.0マシンでは、いずれも640×240ドットとなっているが、カラー化により非常に見やすくなっている。しかし、ディスプレイのカラー化と高解像度化は電源消費が大きくなるため、モバイルが中心となるCE 2.0マシンにとっては諸刃の剣でもある。

大きなキーボード

CE 2.0の標準機能ではないが、日本で発表されたCEマシンの多くがキーボードを大きくしており、NECと日立はサブノートPCと同じ大きさのキーボードを採用している。これは、CE 1.0を搭載したマシンをリリースしたときに、本体の大きさにこだわって、キーボード



を小さくしすぎて、キー入力が非常にやりにくいと評されたためだ。

外部ディスプレイに対応

これもCE 2.0マシンがすべてもっているというわけではないが、外部ディスプレイへの表示機能は非常に便利だ。NEC、日立の両マシンとも外部ディスプレイコネクタを装備しているため、プロジェクターなどでポケットパワーポイントの画面を映して、プレゼンテーションなどを簡単に行うことができるのだ。

ウィンドウズCE 2.0の主な強化機能

	ウィンドウズCE 1.0	ウィンドウズCE 2.0
表示	480×240 4階調グレースケールが主流	640×240 256色カラーあるいは4階調グレースケールが主流
接続方法	赤外線通信、シリアル	赤外線通信、シリアル、イーサネット(LAN)モデム
シンクロナイズ	アドレス帳、カレンダー、タスク	アドレス帳、カレンダー、タスク、受信トレイ各種ファイル
接続可能台数(H/PC:PC)	1台:1台	1台:2台あるいは複数台:1台
印刷機能	パソコンを介して印刷	H/PCからプリンターへ直接印刷

ウィンドウズCEって何だ?

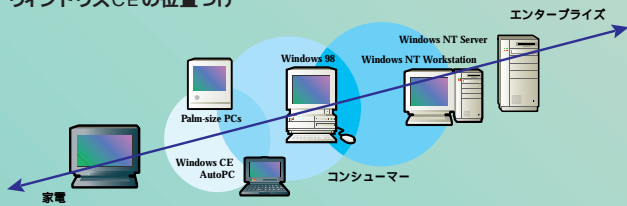
マイクロソフトでは、ウィンドウズCEを単なるモバイル端末用のソフトとしては考えていない。今回発表されたCE 2.0マシンだけでなく、ウィンドウズCE 2.0 OSをベースとした製品を数多く計画している。1月に発表されたPalm-size PCs (PalmPCと呼ばれていたものが名称を変更した)は、現在のCEマシンをより小型化した電子手帳システムだ。キーボードがないため、操作はすべて液晶画面にタッチペンで行う。スケジュールやアドレス帳などのデータはPalm-size PCsとデスクトップの双方から管理でき、ウィンドウズCE 2.0のデスクトップPCとのシンクロナイズ機能によって、常時同期させることができる。

また、AutoPCは、いわばウィンドウズCE 2.0をベースとしたカーナビだ。AutoPCの最大の特徴は、音声でAutoPCを操作できることだろう。道のナビゲーションも音声で行われる。さらに、携帯電話として電話を受けたり、かけたりすることもできる。AutoPCは単なるカーナビというよりも、より高度なコミ

ュニケーションシステムを目指している。

これら以外にも、CE 2.0を利用したサブノートPC、企業で採用が検討されているウィンドウズベースド・ターミナル(オラクル社のNCへの対抗製品)などのOSとして利用される。

ウィンドウズCEの位置づけ





強化されたネットワーク機能

ウィンドウズCE2.0では、「ActiveSync」と呼ばれるデスクトップPCとのシンクロナイズ機能やネットワーク機能が強化されている。これにより、ユーザーはシリアルケーブルだけでなく、赤外線ポートやイーサネットなどを經由して、デスクトップPCとシンクロナイズすることができる。

デスクトップPCとの連携が簡単に

CE2.0で採用されたActiveSync機能では、電子メールの受信フォルダやアドレス帳、カレンダーなどのデータを、CE2.0マシンのポケットアウトLOOKとデスクトップPCのアウトLOOK 97とでシンクロナイズすることができる。今回のバージョンで便利になった点は、CEマシンとデスクトップPCを接続すると自動的にActive Syncが動き出し、データのシンクロナイズを行うことだ。これにより、ボタンなどを押したり、特定のソフトを起動したりしなくてもよくなった。

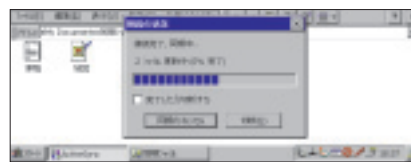
さらに、デスクトップPCとの接続には、CE 1.0で採用されていたシリアルケーブルだけで

なく、赤外線ポート、イーサネット、モデムによるダイヤルアップ接続などでも行うことができる。特に、イーサネットをサポートしたことで、会社のLANに接続すれば自分のデスクトップPCに接続してデータのシンクロナイズができるようになったのはうれしい。さらに、モデムのダイヤルアップ機能を利用すれば、外出先から自分のデスクトップPCを呼び出して、受信した電子メールのシンクロナイズを行うことも可能だ。

LAN接続が実現したことにより、CE1.0のように1台のデスクトップPCと1台のCEマシンでだけデータのシンクロナイズを行うといった制限はなくなった。CE2.0では、1台のCEマシンを2台のデスクトップPCに接続することもできるし、逆に1台のデスクトップPCに

複数のCE2.0マシンを接続することも可能になっている。

もちろん、ユーザーが特定のファイルを指定してシンクロナイズすることもできる。もし、ファイルや電子メールの内容がCEマシンとデスクトップPCで異なる場合は、どちらのデータが最新のバージョンなのかをユーザーに尋ねてくる。これで、データのアップデートのトラブルを防ぐことができるわけだ。



LAN接続なら、テキストファイルと画像数枚程度なら、シンクロナイズはあっという間だ。

WWWブラウザはSSLとActiveXコントロールに対応

CE2.0には標準でポケットインターネットエクスプローラというWWWブラウザがバンドルされている。このWWWブラウザはIE3.0をベースに、IE4.0のいくつかの機能が追加されている。IE4.0のアクティブデスクトップ機能をCE2.0で完全にサポートしているわけではないが、WWWブラウザとファイル操作のエクスプローラが合体している。これにより、インターネットのファイルもローカルのファイルも同じ操作で扱うことができる。

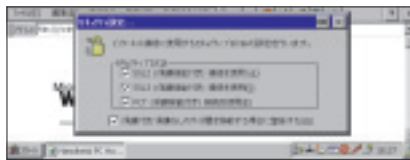
また、TrueTypeフォントをサポートしたことで、ウェブページを縮小表示したり、拡大表示したりすることもできる。これにより、CE2.0マシンの小さな画面でもウェブページを見やすくできる。さらに、CE2.0マシン自体にプリンターポートを用意しているので、ウェブページの印刷も簡単に行える。

セキュリティに関しても、SSL2とSSL3をサポートしているため、オンラインショッピングなどのセキュリティを必要とするウェブサイトへのアクセスも可能になった。また、マ

イクロソフトが開発したセキュリティプロトコル「PCT(Private Communication Protocol)」もサポートしている。

このほかの特徴としては、IE3.0で採用されたActiveXコントロールがCE2.0でサポートされている。CE2.0用(各CPU用)にモジュールを作る必要はあるが、IE3.0と同じプログラミングでCEマシン用のActiveXコントロールを作ることが可能だ。

これにより、モジュールさえあれば、マクロメディア社のショックウェブなどを使ったウェブページも見られるようになる。



SSL2、SSL3、PCTの3つのセキュリティプロトコルに対応した。

電子メールは添付ファイルを扱えるようになった

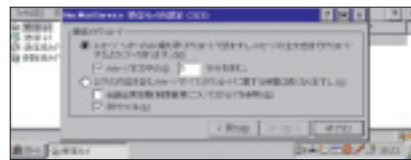
電子メール機能に関しても、大幅に機能が

アップされている。CE2.0にバンドルされているポケットアウトLOOKでは、MIME(base64)による添付ファイルをサポートしており、ポケットワード作成した文書ファイル、デジタルカメラで撮影した画像ファイル、CE2.0マシン内蔵のマイクで録音した音声ファイルなどを電子メールで送受信できる。

また、メールのヘッダー部分のみを受信する、未読メールのみを受信するといった便利な機能も追加されている。



電子メールの添付ファイル機能は、最もリクエストの多かった機能の1つだろう。



電子メールのヘッダーだけ読み込めば、メールを取り込む時間も短縮できる。



買ったその日に 使えるソフトがこんなにある！

ウィンドウズCE2.0には、標準でマイクロソフト社のアプリケーションがバンドルされている。電子メールソフトや表計算ソフト、ワープロソフト、WWWブラウザなどが入っているため、CEマシンを買ったその日から十分にCE2.0を活用することができるのだ。



プレゼンテーションソフト

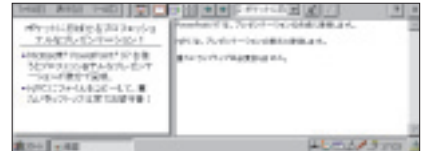
ポケットパワーポイント

CE2.0で追加されたソフトとしては、ポケットパワーポイントがある。このソフトを利用すればデスクトップPCのパワーポイントで作られたプレゼンテーションファイルをCE2.0マシンで表示できる。これなら、重いノートPCを持ち歩かなくても、プレゼンテーションができるのだ。そして、このときに生きるのがCE2.0マシンの外部ディスプレイ機能。CE2.0マシンの外部にモニターやプロジェクターを接続することで、多くの人にプレゼンテーションを見せられるわけだ。

注意が必要なのは、ポケットパワーポイントは、パワーポイントのデータを表示する機能がメインとなっているため、デスクトップPC用のパワーポイントにあったスライドを作成する機能が削除されている。スライドの順序を入れ替えたり、特定のスライドを隠したりといった簡単なことはできるが、ポケットパワーポイントでスライドの作成や編集はできない。ポケットパワーポイントは、パワーポイントのデータを表示させるビューアソフトとして使ったほうがいだろう。

標準装備の主なソフトウェア

ソフト名	種類
ポケットワード	ワープロ
ポケットエクセル	表計算
ポケットパワーポイント	プレゼンテーション
ポケットインターネットエクスプローラ	WWWブラウザ
ポケットアウトルック	受信トレイ、アドレス帳、カレンダー、タスク
ボイスレコーダー	音声録音
ソリティア	ゲーム



外部ディスプレイを接続すると、640 x 480ドット、256色での表示が可能。CEマシンを使うことで、大袈裟なハードを持ち込まなくても簡単にプレゼンテーションができる。

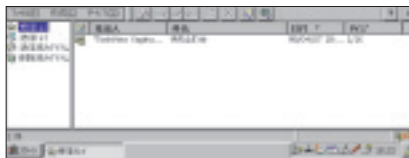


電子メールソフト

ポケットアウトルック

CE2.0マシンの中核ソフトといえるのが、ポケットアウトルックだ。このソフトは、電子メールの送受信だけでなく、アドレス帳、カレンダー、タスクなどをサポートしている。ポケットアウトルックは、デスクトップのアウトルック97と同じ機能を持っている。電子メールで届いたミーティング開催のお知らせにOKを出すだけで、スケジュール帳にミーティングの予定が追加されたり、返信が送られたりする。さらに、手書きメモをデータとして格納しておくこともできる。

送られてきた電子メールのヘッダーだけ読み込むといった、モバイル向けの機能が強化されている。



ポケットインターネットエクスプローラは、IE4.0とIE3.0の一部分を合わせたようなソフトになっている。ActiveXコントロールなどは動作するが、Javaはサポートされていないので、Javaを利用したページに関してはエラーになってしまう(CE2.0用のJavaVMはリリースされていない)。

HTMLは、新たにフレーム機能などがサポートされているが、最近出てきたダイナミックHTMLに関してはサポートされていない。

このため、CE2.0ですべてのホームページにアクセスできるわけではない。このあたりに関しては、機能不足の感が否めない。

フレームに対応したほか、SSL2とSSL3のサポートなど、セキュリティの機能が強化されている。

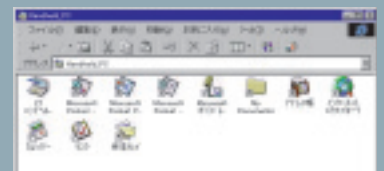


アドレス帳

アドレス帳では、電子メールアドレス、電話番号、FAX番号などを一括して管理することができる。このため、ポケットアウトルックで書いた電子メールをFAXに送信したり、電子メールとして送ったりすることが簡単にできる。もちろん、アウトルックのアドレス帳データと連携できるため、入力はデスクトップPCで、外出先での検索はCE2.0マシンでというように使い分けられる。

新しいソフトをインストールするには

CEマシンは、デスクトップPCと同じようにソフトを追加することができる。基本的には、CD-ROMなどで提供されているCE用のソフトをデスクトップPCにインストールしたCEサービスソフトを利用して、CEマシンにコピーするだけだ。しかし、CEマシン側のメモリーが少ないため、いくつかソフトを入れるときはメモリーを拡張しておく必要がある。それでもバンドルされているすべてのソフトはインストールできないので、必要なものだけを入れるように注意しなければならない。



ウィンドウズ95のデスクトップに作られる「モバイルデバイス」というフォルダーを開くと、CEマシンのデスクトップが表示される。ここに追加したいソフトをコピーする。



CE 2.0 マシンの便利な使い方と選び方

今回発表されたCE 2.0 マシンの多くは、キーボード入力を重視しているため、サブノートPCぐらいの大きさになっている。さらに、カラー液晶を採用した製品は、バッテリーが長時間もたない。このようにCE 2.0 マシンはハンディ性を追求したものではない。だからこそ、自分の用途を見極めて機種を選んでほしい。

外出先から社内のLANにアクセスする

CE 2.0 では、モデムを使ったダイヤルアップ接続をサポートしているので、外出先から社内のLANにアクセスするといったことができる。注意が必要なのは、ウィンドウズネットワークへのアクセスが基本となっているため、UNIX ネットワークにアクセスする場合はCE 側でターミナルソフトが必要になることだ。

ウィンドウズネットワークへのアクセスは、ログオン認証さえ終われば、LAN 上で利用しているのと変わらないサービスが提供されている(LAN よりはやいが)。これなら、電子メールのチェックはCE 2.0 マシンで十分だろう。

デジタルカメラと連携して使う

CE 2.0 マシンのほとんどに、コンパクトフラッシュメモリのスロットが用意されている。これにより、デジタルカメラで撮影した画像をフラッシュメモリから直接読み込んだり、電子メールに添付して送信したりできる。

見やすさで選ぶか 稼働時間で選ぶか

今回発表されたCE 2.0 マシンのカラー液晶モデルのほとんどは、電源消費の大きさを考えて、乾電池での動作ではなく、専用のバッテリーで動くようになっている。しかし、それでもモノクロ液晶モデルと比べると動作時間は格段に短くなってしまふ。NEC のモバイルギアの場合、連続で約8 時間しか利用できない(モデムを利用するとさらに短くなり3.5 時間) これでは、ノートパソコンのようにオフィスや家に持って帰ったら必ず充電しなければならぬ。また、このことを考えると、本体だけでなくAC アダプターなどの周辺機器も持ち歩く必要が出てきてしまふ。

一方、NEC のモバイルギアのモノクロモデルでは、アルカリ乾電池で30 時間も利用できるし、重量も軽くなっている。アルカリ乾電池ならキオスクでも海外でも買うことができるから、電池で苦労することはないだろう。

長時間使用するユーザーならモノクロ液晶モデルがいいが、やはりカラー液晶モデルは画面が非常に見やすいため、一度カラーモデ

ルを使うとモノクロモデルには戻れなくなる。

CE 2.0 マシンは 誰が使うもの?

CE 2.0 になり、カラー化や大型キーボードを採用することで使いやすくなっている反面、CE 2.0 マシンの小ささや長時間利用できるというメリットが失われている。しかも、サブノートPC ほどの性能は持っていない。ちょっと意地悪な見方をすると、非常に中途半端な製品だ。

価格面からも見ても、カラー液晶などの採用により10 万円を越すものとなってしまった。これなら一世代前のサブノートPC なら数万円追加するだけで買える。もちろん、デスクトップPC のファイルとのシンクロナイズが簡単にできることや、ハードディスクがないため壊れにくいといったサブノートPC にはないメリットもあるのだが。

また、マイクロソフトでは夏ごろまでにCE 2.0 をベースとしたPalm-size PCs の日本での発売を計画している。電子手帳と同じような使い方をするというユーザーは、待って比べてみるのもいいだろう。

Product Showcase

コンパクト、HP、カシオの3社もCE 2.0 マシンを発表

ウィンドウズCE 2.0 を搭載したモバイル端末は、日本ではNEC のモバイルギアと日立のPERSONA (ベルソナ) が先行して発売されたが、これを追いかけるように、コンパクト、日本ヒューレット・パ

カード(以下、HP)、カシオの3社も製品を発表している。

コンパクトやHP、カシオは米国で発表されたモデルがベースとなっているため、NEC や日立の

CE 2.0 マシンのように大きなキーボードは採用されていない。このため、コンパクトになってはいるが、電子メールを書いたりするには、ちょっと使いにくい。



カシオベア A-55V
カシオは、CE 1.0 を搭載したカシオベア (A-50、A-51、A-51V) のユーザーに対して、有償 (20000 円) で CE 2.0 へのアップグレードサービスを行う。



コンパクト C シリーズ
コンパクトでは、ウィンドウズCE 2.0 のリリースにあたってモノクロモデルとカラーモデルの2つを用意しており、CPU には両方ともMIPS ベースを採用している。



HP 620LX 日本語版
HP のCE 2.0 マシンは、大型キーボードを採用していない。しかし、その分日本のメーカーのものよりもコンパクトにできあがっている。



日本語版ウィンドウズCE 2.0 搭載マシン主要機能一覧

製品名	Mobile Gear MC-R500	Mobile Gear MC-R300	PERSONA HPW-200JC	カシオペア A-5.5V	HP 620LX 日本語版	コンパクト Cシリーズ ハンドヘルドPC カラーモデル	コンパクト Cシリーズ ハンドヘルドPC モノクロモデル
メーカー	NEC	NEC	日立製作所	カシオ計算機(株)	日本ヒューレット・パッカード	コンパクトコンピュータ	コンパクトコンピュータ
標準価格	¥120,000	¥94,000	¥138,000	¥65,000	未定	未定	未定
実勢価格	¥108,000	¥79,800	-	-	-	-	-
CPU	NEC VR4111	NEC VR4111	日立SH-3(100MHz)	日立SH-3(80MHz)	日立SH-3(75MHz)	MIPSベース(75MHz)	MIPSベース(75MHz)
RAM(最大)	16MB(32MB)	8MB(32MB)	16MB(48MB)	8MB(増設不可)	16MB(増設不可)	20MB(32MB)	8MB(20MB)
液晶	8.1インチカラー-STN CFLバックライト付 640 x 240ドット、256色	7.3インチモノクロELバックライト付 640 x 240ドット、4階調	8.1インチカラー-STN - 640 x 240ドット、256色	モノクロFSTN ELバックライト付 480 x 240ドット、4階調	8.1インチカラー-STNバックライト付 640 x 240ドット、256色	6.5インチカラー-STN LCD 2段階バックライト付 640 x 240ドット、256色	6.5インチカラー-STN LCD 2段階バックライト付 640 x 240ドット、4階調
モデム	33.6KbpsFAXモデム内蔵	33.6KbpsFAXモデム内蔵	33.6KbpsFAXモデム内蔵	-	-	33.6Kbps内蔵ソフトウェアモデム	33.6Kbps内蔵ソフトウェアモデム
デジタル端子	-	-	デジタル携帯電話(PDC: 9.6Kbps) PHS (PIAFS: 32Kbps)兼用端子	-	-	-	-
インターフェイス	RS-232C RJ-11 VGAモニター IrDA 1.0 PCMCIA Type2 コンパクトフラッシュスロット マイク、スピーカー	RS-232C RJ-11 VGAモニター IrDA 1.0 PCMCIA Type2 コンパクトフラッシュスロット マイク、スピーカー	RS-232C RJ-11 VGAモニター IrDA 1.0 PCMCIA Type2 コンパクトフラッシュスロット マイク、スピーカー	RS-232C IrDA 1.0 PCMCIA Type2 コンパクトフラッシュスロット マイク、スピーカー カシオ独自規格3pinシリアル	RS-232C IrDA 1.0 PCMCIA Type2 コンパクトフラッシュスロット マイク、スピーカー	RS-232C RJ-11 VGAモニター(オプション) IrDA 1.0 PCMCIA Type2 スピーカー	RS-232C RJ-11 VGAモニター(オプション) IrDA 1.0 PCMCIA Type2 スピーカー
バッテリー	リチウムイオン	単3アルカリ乾電池 x 2 専用充電電池(別売オプション)	リチウムイオン	リチウムイオン 単3アルカリ乾電池	リチウムイオン	ニッケル水素	単3アルカリ乾電池 x 2
駆動時間(非通信時)	約8時間	約30時間(乾電池) 約16時間(充電電池)	約10時間	約15時間(リチウムイオン) 約25時間(乾電池)	約7時間(標準) 約11時間(長時間バッテリー)	-	-
本体サイズ(WxDxH0mm)	245 x 138 x 31.4	245 x 122 x 30.5	253 x 131 x 32	185 x 94 x 24.5	198 x 104 x 36	186 x 100 x 41	186 x 100 x 34
重量(電池含む)	850g	670g	820g	390g	586g	430g	390g
バンドルソフト	MGメール MG FAX MGエディタ MGパソコン通信 MGボイスレコーダ MGオートダイアラー MG運用アシスタント データ交換ツール MGニュース配信 サービス申し込み オートパイロット MGポケベルコール コールバック接続ツール MG 10円メール MGメールアドレスドメイン更新 MG通信設定コピー PCメールインポート MobileGearSTATION メール連携機能(体験版) MobileGear メールゲートウェイ(体験版)	MGメール MG FAX MGエディタ MGパソコン通信 MGボイスレコーダ MGオートダイアラー MG運用アシスタント データ交換ツール MGニュース配信 サービス申し込み オートパイロット MGポケベルコール コールバック接続ツール MG 10円メール MGメールアドレスドメイン更新 MG通信設定コピー PCメールインポート MobileGearSTATION メール連携機能(体験版) MobileGear メールゲートウェイ(体験版)	スクリーンキャプチャ 手書きメモ NIFTY通信 for WindowsCE 辞典、ファイルビューア 10円メールマスターCE版 MojiMail EX for CE 真乃助 for CE Ver2.0 Flashnavi for WindowsCE Epils Version1.5 with SuperEditorCE、Epicl Version1.5 Pimiento Version1.5 EASY LINK for H/PC Version1.0 MapFan III CE for Windows95/CE プレビュー版 乗換案内時刻表対応版 for WindowsCE デジタル時刻表&経路検索ソフト ハイパーダイヤ for CE ワードマツチ、SLOT!	Luna-Term 値之助 for CE NetFront 2.0 for Windows CE 10円メールマスターCE版 AI将棋 Packet for CASSIOPEIA トラベルナビゲータ for CE G-天王星 Sound-Vega Paint-Atlas Argo-Builder	bFaxPro bFind Month-at-a-Glance	未定	未定
発売	3月20日出荷	3月20日出荷	4月20日発売	4月30日発売	5月中旬発売	第2四半期	第2四半期

主要機能は変更されることがあります。

ウィンドウズCE 2.1 発表

日本ではウィンドウズCE2.0(日本語版)を発表したばかりのマイクロソフトだが、4月に米国で開催されたウィンドウズCEの開発者セミナーでは、早くもウィンドウズCE2.1を発表している。

CE2.1では、対応CPUの追加、リアルタイム処理のサポート、セキュリティの強化、各種インターフェイスのサポートなどが行われている。

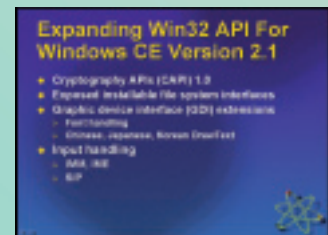
CE2.0では、日立の「SH」や「MIPS-CPU」などしかサポートされていなかったが、CE2.1ではアップル社のニュートンなどで使われていた「ARMプロセッサ」、IBMの「PowerPC

403GC」などが追加されている。

また、リアルタイム処理のサポートにより、CE2.1を各種の組み込み機器用OSとして利用することが可能になる。家電機器やAV機器などにCE2.1を採用することで、簡単にネットワーク化やパソコンとの連携ができるようになる。

ほかに、この開発者セミナーでは、オラクルやサイベースがCE2.1用のコンパクトなデータベースを開発しているとか、マイクロソフトがCE2.1で動作するJavaVMの開発も進めているといった話題があった。

といっても、製品の発売は当分先のことになるから、CE2.1を搭載したマシンを待つことはないだろう。





原寸大



カラーモデルとモノクロモデルがある

Mobile Gear MC-R500

NEC 120,000円

- 850グラム
- 8.1型256色カラーSTN液晶
- メモリー16MB
- キーピッチ16.5mm
- 内蔵FAXモデム
- コンパクトフラッシュ
- PCカード×1

Product Showcase



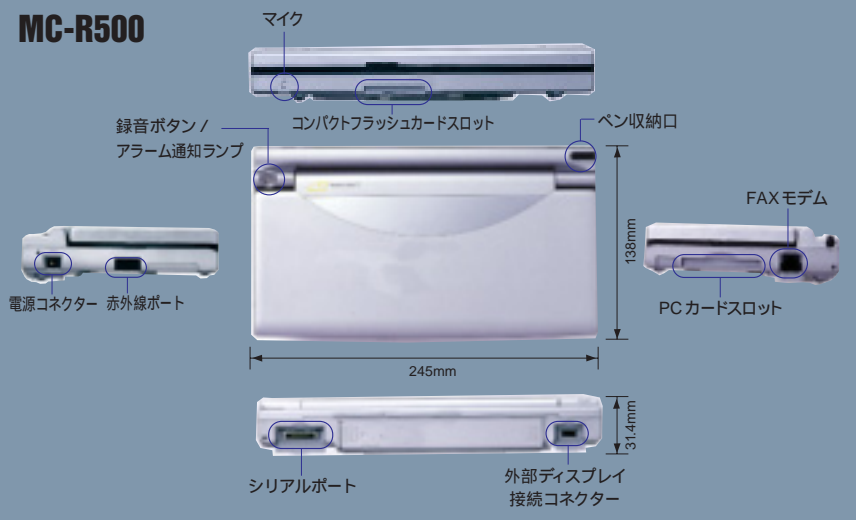
URL <http://www.nec.co.jp/mg/>

モノクロモデル MC-R300



モノクロモデルは94,000円、670グラム、7.3型4階調モノクロEL液晶、メモリー8MB。

MC-R500



MKシリーズの使いやすさを継承

今回NECが発表したMobile Gearは、単にウィンドウズCE2.0ベースのモバイル端末をリリースしたというものではない。使いやすさで評価が高かったDOS版のMobile Gearと同じインターフェイスをウィンドウズCE版でも提供している。

キーボードに関しても、入力を重視した大型キーボードを採用している。CE1.0のモデルよりも一回り大きくなったが、使い勝手は向上している。CPUも日本語環境を考慮して、パフォーマンスに優れた64ビットRISC-CPU「VR4111」を採用している。新たに開発されたこのCPUでは、パフォーマンスだけでなく、低消費電力化もなされている。



原寸大

カラーモデルとモノクロモデル

NECのMobil Gearには、モノクロモデルとカラーモデルの2種類が用意されている。両モデルとも同じソフトがインストールされているし、CPUも同じものが使われている(若干本体の大きさに差がある)。このため、基本機能(ディスプレイを除く)はほとんど変わらない。

モノクロモデルは、単3アルカリ乾電池で動作できるようになっており、動作時間も30時間と非常に長い。カラーモデルは、専用バッテリーを利用しても8時間しか利用できない。外出先で長時間使いたいというユーザーはモノクロモデルを選ぶべきだろう。しかし、いったんカラーモデルの見やすさを知ってしまうとモノクロモデルは使いにくく感じてしまう。ユーザーは、どういった用途でMobile Gearを使うのかをはっきりさせておく必要があるだろう。使用時間をとるのか、見やすさを選ぶのか、現在のMobile Gearは両方のニーズを1台で満たすことはできない。

豊富なオリジナルソフト

Mobile Gearの最大の特徴が、NECが独自に開発したMGソフトシリーズだ。これらのソフトは、大ヒットしたDOS版のMobile GearのソフトをウィンドウズCEに移植したものだ。

今回提供されたMGメールでは、MIME形式による添付ファイルをサポートしているので、バイナリーファイルを電子メールで送受信できる。さらに便利なのは、複数のプロバイダーを切り替えて利用できる機能だ。これにより、ユーザーは用途に応じてもっとも便利なプロバイダーを選択してアクセスできる。

メールゲートウェイソフトをデスクトップパソコンにインストールすれば、外出先からモデムで会社の電子メールサーバーにアクセスしたり、コールバック機能を利用したりできるようになる。



DOS版では定評のあったMGメール。CE2.0版では、MIME形式による添付ファイルをサポートしている。





原寸大



ネットワーク機能が充実

PERSONA HPW-200JC

日立製作所

13,8000円

820グラム

8.1型256色カラー-STN液晶

メモリー16MB

キーピッチ16.5mm

内蔵FAXモデム

コンパクトフラッシュ

PCカードx1

PDC / PIAFS端子

URL <http://www.hitachi.co.jp/Prod/persona/persona.htm>



デジタル携帯電話 / PHS(PIAFS)端子

今まで日立は、米国ではウィンドウズCE1.0を搭載したモバイル端末を発売していたが、ウィンドウズCE2.0から日本での発売を開始した。今回発表したPERSONA(ペルソナ)は、大型のカラー液晶と大型キーボードを採用したものだ。

特徴的なのは、デジタル携帯電話とPHS(PIAFS)との接続インターフェイスを内蔵していることだろう。これにより、携帯電話やPHSを利用した通信では、電話機本体と接続ケーブルだけあればOK。ほかのCEマシンのようにPCカードになったインターフェイスカードを利用しなくてもよい。CEマシンが屋外で使われることを考えると便利な機能だ。

さらに、33.6KbpsのFAXモデム(FAXは14.4Kbps)も内蔵しているため、有線の電話回線を利用してインターネットアクセスなども可能になっている。

もちろん、通信を行うと駆動時間は短くなる。



Product Showcase

4月1日現在の時点で製品が入手できなかったため、今回の評価は試作機で行いました。写真も試作機のもので、製品とは多少異なることがあります。ご了承ください。

HPW-200JC





原寸大

使いたいソフトを一発起動

PERSONAでは、特殊なファンクションキー「クイックスタートキー」を10個用意している。このキーを押せば、PERSONAの電源がOFFになっていても、自動的に電源をONにして、指定されたアプリケーションを起動できる。使いたいときにボタンを押すだけで、すぐにアプリケーションが使えるので、今までのように、CEマシンの電源をONして、アプリケーションを起動する操作はしなくてもいい。電子手帳感覚で利用できるのだ。

しかも、10個のクイックスタートキーのうち2つはユーザーが自由にアプリケーションを登録できるようになっている。

電源に関しては、カラー液晶を利用するため、単3乾電池ではなくリチウムイオンバッテリーを使用している。

豊富なビジネスソフト

PERSONAにも、マイクロソフト社があらかじめ用意している標準ソフト以外にいくつかのソフトがバンドルされている。

まず、パソコン通信「ニフティサーブ」にアクセスするための通信ソフト「NIFTY通信 for WindowsCE」がある。このソフトを利用すれば、ニフティサーブの電子メールだけでなく、フォーラムなどを自動巡回して、本体のメモリにメッセージを蓄積できる。これなら、いったん電話回線を切ってから、あとでゆっくりとメッセージを読むことができる。

また、携帯電話やポケットベルでの通信機能をサポートするために、マスターネットが開発したNTTドコモの10円メールサービス用の電子メールソフトや、ポケットベル、PHS、携帯電話に文字メッセージを送信するためのソフトもバンドルされている。

このほかには、電子メールに添付して送られてきたワードやエクセルのデータを見ることができる「ファイルビューア」や、ペンで液晶ディスプレイに手書きでメモが書ける「手書きメモ」などが用意されている。

NECのように独自の電子メールソフトやコミュニケーションソフトはないが、辞典や電車の乗換案内ソフトなど、実用的なソフトが多くバンドルされているのが魅力といえるだろう。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp